

議事録

項目	第1回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 アクティビティ・マネジメント部会
協議日時	平成30年8月6日(月) 13:30~15:30
協議場所	熊本市役所 本庁舎 11階会議室
協議者 (敬称略)	国立大学法人 熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授 星野 裕司(部会長) 公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司 公益財団法人 地方経済総合研究所 主任研究員 藤田 英介 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一 協業組合江津湖観光 マネージャー 江藤 啓貴 江津湖貸舟協同組合 幹事 宮本 龍一 一般社団法人 熊本市造園建設業協会 理事 松本 秀和 一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 熊本市総合体育館・青年会館 館長 田口 八司郎 水前寺活性化プロジェクトチーム 事務局 楠本 英雄 幹事(関係課16課)、事務局(公園課)
<p><議題></p> <p>(1) アクティビティ・マネジメント部会について</p> <p>(2) 水前寺江津湖公園の課題について</p> <p>(3) その他</p> <p>【議事録】</p> <p>●皆さん、こんにちは。熊本大学の星野と申します。この部会の部会長を務めさせていただきます。江津湖公園は非常に歴史もありまして、すでに市民も含めて活動も事業も豊かなところだと思います。2つ部会がありますけれども、特にこのアクティビティ・マネジメント部会は、豊かな歴史が積み重ねてきたものを、より長く継続して歴史を積み重ねていくために、少し色んな工夫だったりとか、新しい取り組みをしないといけないんじゃないかとそのことを議論するのが、この部会かなというふうに思っています。部会というにはメンバーが多いですけれども、部会ですので、ざっくばらんに議論できればなと思います。よろしく願いいたします。(星野部会長)</p> <p>～議題(1)「アクティビティ・マネジメント部会について」説明後～</p> <p>●今、議題(1)としてご説明があったのは、部会の位置づけと今までのいろんなニーズ関係の報告およびこの部会で議論したいキーワードというか、内容と段取りというような形、4項目です。今日のメインは資料(2)課題についてを、皆で言い合うことがメインになるかと思うんですけども、資料(1)今ご説明の中で、皆様気になったところとか、ご意見等何かございましたら、何でもいいので、お願いいたします。私が単純に気になったところで、市民ニ-</p>	

ズの把握が微妙に古いなど、今が平成30年ですよ。（星野部会長）

- そうですね。熊本地震が発生する前、この計画を策定していこうという動きがあって、これから今年度計画を策定していく中では色々な市民ニーズを改めて把握したいとは思っております。（事務局）
- 中学生会議（東部まちづくりセンター）とかでも議論になっていた事業とか、皆さんもっているものをどんどん共有してくれるといいなど、何かそういうのはありますか。（星野部会長）
- この中に出ている中で、中学生が言っていたのは、ドッグランとか、手前のほうは結構人がよくいくけれど、奥のほうまでは人がいかないという、でかなり放置された場所があるという、実際歩いてみてまわって、そういったのがほしいとか、遊びにきた人が荷物をおくロッカーがほしいとか、あればいいよねとか、そういった視点を話していましたね。（東部まちづくりセンター）
- それはあとの課題のところでもいれてもらいたいと思いますけれど、そういう意味では皆さんもっている市民のアンケートとか、この場で共有していただけたらいいなと思います。その他どうですか。特に皆さんと共有しないといけないのは、この資料でいうと5ページ、6ページあたりが、この部会で議論していかないといけない、あるいは、方針、計画を決めないといけないというところについて、何かこういう視点が足りないんじゃないかとか、考えていけたらいいなと思うんですけど。次の資料2とかになると個別の課題とかを共有しようという形になるので、全体のビジョンみたいなところは今ここで議論していきたいなと思います。市役所の中からもどうぞ。言いたいことはどんどん言ってください。（星野部会長）
- 前回の第1回会議、この直後、実は私は江津湖に行って、そういうフィールドワークなさっている方はあんまりいらっしゃらないかもしれない。偶然いただけなんですけれども、あの時はやはりあの会議の中では、環境保全のことのボリュームがすごく発言内容が多かったように思うので、現実的にはどうなのかなと10%くらい頭の中においたんですけど、やはり極端にやりすぎるとまずいなといういろいろありましたよね、管理のほうも、ある程度自然のバランスの中で、すでに共存、という状況があるかと思います。その辺を考えながら、アクティビティ関係のことも環境保全優先に寄り添っていくというのが通常の公園と全く違うポイントじゃないかなと思います。あと市民ニーズのほうは、やはりちゃんと調べておかないといけないことですので、小学生が一番よく分かっている。子ども達が言っていることは正しいと思います。同時にまた、看板とか、ごみを捨てる的なものは日本中あふれているので、それをどうせ済むかというスキームが私は非常に大事だという気がします。利便性よりはどう利用するかということもありますが、やはり自然環境が非常に大切になってくるのかなという、今日加勢川の関係の方も来られているということですが、江津湖から加勢川へ結びつくこのラインはすごくいいです。私も何度か、大西さんとも1回下ったこともあります、カヌーで、そうすると川尻まではそんなに遠くはないもので、古い熊本を発見する旅になります。それと生き物の数が、残

念ながら、江津湖と秋津川の合流地点、いわゆる上流に生き物のかげがないんですよ。その下流には生き物はいます。そのへんも含めて、ちょっと幅広く捉えると、いずれにしても、加勢川の沿岸の状況はわりといいなというふうに思います。できればそのまま自然な状態を、ある程度残していけたらなと思います。(葉山委員)

- 資料1の5ページでいうと、適切な公園経営・資産運用とありますけれども、適切なのというのが、どの程度のものなのか、江津湖なりの適切さというものを探っていかなければいけないということですよ。街なかの公園とかなら、たとえば南池袋みたいにバンバン人がきて、バンバンお金を稼いでみたいないものもありますけれども、おそらく江津湖は違うだろうと思いますし、そこら辺を皆さんと議論しながらでしょうね。(星野部会長)
- いわゆる都市部、中心部がありまして、私も中心部で商売をさせていただいておりますし、先ほどのアートプレックスのような中心地活性化の動きもやらせていただいておりますけれども、その後背地というところとちょっとあれですけども、通常郊外というものはもっと遠くにあるものなんです、いいバランスで熊本の場合はあるのと、奇跡的なことに、中心部にそういった後背地があるというところが、他都市と違いユニークなところだと思います。(葉山委員)
- 江津湖は十分に街なかともいえるということですよ。(星野部会長)
- そうですね、それと面白いのが、ややアクセスがしにくい。(葉山委員)
- 見る人によっては、すごいしにくいという人もいるかもしれない。(星野部会長)
- 電車通りで降りてそこからどうやっていったらいいんだろう。そこがいいんですよ。(葉山委員)
- そこら辺が悩ましいところなんですよ。それがいいという人もいるけれど。(星野部会長)
- 秘密の場所みたいなものですよ。そんな感じのコンセプトはとていいんじゃないかというふうに思います。(葉山委員)
- 整備を行うことによって、一般市民の方が、普段子どもさん、一般家庭の方が遊びにこられるという、そういった利用の仕方が増えていると思うんですけど、今度は花火大会もありますよね、そういった大きなイベントもあります。土曜、日曜あたりは大きなイベントができるような整備になるのかとか、そういったどちらでもとれるような環境整備になっていくのか、たとえば野外ステージをつくって、たとえば阿蘇のロックフェスティバルとかありますけれども、そういったものを街なかでやれるようにするのか、一般市民の方が平日に集れるようなことも目指していくのかということが、私はどちらなのかなと思います。(田口委員)
- そこは議論だと思います。たとえば、この資料に即して言うと、6ページ目のアクティビティ

というものの幅をどこまで考えていくのかと、今も使われている、平日の利用、日常の利用をベースにいくのか、ちょっと攻め込んだことをできるようにするのか、先ほどの適切さとも関連してくるでしょうし、そこら辺が論点になってくるんだろうなと、たぶんそういうのは、計画の骨子とか、方針とかというところで、方針のところくらいで議論していくのかなと思います。まずは皆さんのご意見をいただきながらというところで。ちなみにどちらがいいと思われませんか。(星野部会長)

- どちらもできるように、大きくなくてよいので、簡単なステージがあればいろいろなイベントもできると思います。(田口委員)
- 他に議論しないといけないところの部分で、若松さん何かありますか。(星野部会長)
- 部会とあり方というか、せつくなので、こういった部会を、今葉山さんも言われたみたいに、フィールドワークというか、そういった形で開催すればいいんじゃないかと思います。(若松委員)
- 私もそう思います。(星野部会長)
- たぶん部会が開催される時期とか、時間であるとかで、江津湖の見え方っていうのはまた変わってくるだろうと思っていますし、その机上で、いろいろ考えるよりも、その場で、それこそ、つかまえた人から話を聞くとか、そういうのがすごくいきてる意見、ヒアリングになる気がしていて、どうしてもこういうヒアリングとか、声をもった人の意見だけを吸い上げると、つかめない部分というのが非常に多くあると思うので、とにかくそういった現場に出て行くっていうのが大事なんじゃないかなと思っていますので、この暑さなので、外でとは言いませんが、どこか近くでできると、ここの章を議論しているときに、そこを皆で見に行きましょうというふうな、そういうフットワークがあったほうが、より深まるんじゃないかなと思います。(若松委員)
- それこそ部会という感じですよ。(星野部会長)
- そうですね。(若松委員)
- 委員会みたいなのは、えらいところでやってもらって。(星野部会長)
- ちょっと一個言ってもいいですか。私うまれたときからずっと江津湖で生活しているんですけども、それこそ物心ついたときから江津湖で遊んでいて、でお店に来る方たちも、やっぱり色んな意見をおっしゃるんですよ、その中の意見で、江津湖を、こんな街なかにこのような綺麗な場所があるなんて知らなかったとか、あと水が本当に綺麗ですねというのをほんとによく聞くんですよ。もちろん市内のお客さん、県外のお客さんもいらっしゃるんで、その中で上

江津湖、下江津湖を知らないっていう方、市内の方よくいらっしゃいます。いったいどっちが上江津湖でどっちが下江津湖なんですかっていうふうにですね。上江津湖は上江津湖だけの良さがある、下江津湖は下江津湖の良さがあると思うんですけど、そこを連携させるのが一番いいんじゃないかなと思います。駐車場をわざわざ移動しないといけないんですかということも聞かれたりもします。資料の6ページ目になるんですけど、園内移動手段というところで、水上移動とかも入っているので、このへんですね。私たちのところは屋形船も持っているんで、上江津湖から下江津湖まで移動手段として、使うこともできるんじゃないかとも思うんですよ。実際子ども達なんかは船に乗る機会もないと思いますんで、その中で環境の学習とかもできたりとか、そこをちょっと、上江津湖と下江津湖で連携させて、お互いに送りあえるような関係になれば一番いいと思うんですよ。さっきの部会に関しても、もしあれだったら、うちのお店の敷地もあるんで、そこで部会を開催してもぜんぜん問題ないですし、訪れる人もいるので、お店に来た人たちからちょっとアンケートをとらせていただいたりとかもできるのかなと思います。(江藤委員)

●部会の、今度の開催場所等は、ちょっと状況等考えて。スノーピークさんは大きなテントすぐ持ってこれたりするんですか。(星野部会長)

●そうですね、それでもよければ。(若松委員)

●季節の問題とかもありますので、あとひとつ今たしかに言われていて、エリア全体の連携みたいな視点が今ここにあまりかかれていないなと思って、魅力と質の向上なのか、たしかに多様なものが連携している、意外と水前寺公園と江津湖が全部つながっているって、ちゃんと知らない人って意外と多いような感じもするんですよ。電車通りとかで、きれちゃっていたりで。資源を連携させていくっていうどっかの方針の中にあっただほうがいいなと。(星野部会長)

●そうですね、5ページ目の目指すべき方向性の中に、魅力と質の部分に、基本的考え方の(2)の公園経営・資産運用にも入ってくるかもしれない、そちらのほうに書き込みができるよう工夫をしてみます。(事務局)

●方針とかここらへんだけでもいろんな議論ができるんでしょうけど、実際は具体的に知ったほうがいいので、資料2にいったからどンドンしますかね。資料2が色々な課題とかを具体的に、資料1のレベルに戻ってもいいんですけど、説明だけ受けて、あとは自由に議論していきたいなと思います。資料2のほうを説明お願いします。(星野部会長)

～議題(2)「水前寺江津湖公園の課題について」説明後～

●先ほどのスケジュールでいうと、第2回からは課題に対する方向性(イメージ)について議論していかないといけないんですね。(星野部会長)

- そうです。(事務局)
- なので、課題の方向性（イメージ）の答えまでを出さないといけないのが、この部会や協議会ということですよ。(星野部会長)
- そうですね。(事務局)
- あれだめこれだめと言っていれば済むということではなくて、どう解決するかまで考えないといけない。はい、というところで、皆さんで頑張りましょう。資料1も含めてですけども、資料2とかも、特に現場みられている方とか、みててこれが足りないとか、いろんなレベルで皆さんと意見交換していきたいなと思います。(星野部会長)
- いろいろお話をいただいて感じたことがあるんですけど、それぞれ江津湖いいところもいっぱいあって、それに対して問題もいっぱいあるということがこれを見て、分かるんですよ。あるのはいいですけども、これは果たして市民がみて、理解できるかという、最終的にいきつくところは、江津湖はいかに魅力的な場所である、その魅力を高めるためにこういう改善策をするという整理をする必要があるんですけども、今のままではいいところもあって、悪いところもあって、じゃあどうなのって、収集がつかないと思います。私の整理の仕方の提案なんですけども、たとえば、江津湖ってこういう魅力がありますよねっていうのを、5つくらいにまとめる。それに対して、こういう悪いところを改善していきましょうというところを5つくらいに分ける。そうやったほうが整理になるのかなというふうに思います。具体的には、江津湖ってこういうことができるよね、動物と触れ合えるよねっていうのがひとつあったり、他には経験できない船とかカヌーで遊べるよねとかいうのも魅力だったりすると思うんですよ、分かりやすい言葉で、魅力と改善するところを整理するといいと感じました。以上です。(藤田委員)
- おそらく、そうやってまとめていくというのが第2回でということになると思うんですけど、結局市民に伝わらなければ駄目だから、わからないけど行政って、一問一答っていう、はい答えましたということをつくるのが大好きだったりするから、そうならないようにっていうことですよ。(星野部会長)
- そうですね。それじゃいいところって何なのっていうのがわからないと。完成形でそういった形があるといいのかなと思います。(藤田委員)
- そういったことを目指していきましょう。他どうですか。具体的な内容の資料2でもいいし、まだまだ1時間くらいあるので、ゆっくりと議論を、最終的には宿題になるのかな。(星野部会長)
- 今回で課題をフィックスさせるつもりはございませんでして、今回議論をいただいて、各課、

団体関係の方は持ち帰り等もあるかと思しますので、次回、第2回で、ある程度のとりまとめを行いまして、協議会のほうにあげたいと、その後まったくしないかというところではなくて、きちんとフィードバックをしながら、ブラッシュアップはしていくつもりではございます。(事務局)

●はい、どうですか。(星野部会長)

●あれば聞きたいなと思ってますけれども、私先ほどちょっと言い忘れていましたけれども、株式会社スノーピークで、熊本市と連携協定を結ばせていただいて、その後江津湖を見に行ったのが、一番最初になるんですけども、正直な印象として、とてもいい公園だなと思って、このままでいいんじゃないかなって思ったんですよ。たぶんこういった意見やヒアリングでは、どう変わってほしいですかとか前提で聞かれると思うんで、皆さん色々な話合いがあると思うんですけども、その裏に、いやもう今のままが一番いいよっていうふうな意見もあると思うんですよ。そこもすごく大事にしていかなければいけないところだなというふうに考えていて、そういった意見っていうのがここにもうちょっと載ってるのかなと思ったらそうでもなかったもので、実際に出てきてはしないものなんですね。(若松委員)

●どうなんですかね。事務局なのか、現場でみられている方なのか、こういうのは大抵いいことってあがってこないですよ。やはりこういう聞き方をすると、何か不満ありますかっていう感じで聞くから。どうですか。何か、みられている方で。(星野部会長)

●どの立場でいくとか、自分が子育てをしているのかとか、子育てが終わっているのかとか、みるときの目線で良くみえたり、悪くみえたり、それはすごく変わってくる場所だなとは感じます。(東部まちづくりセンター)

●その中で、保全を中心にやっていくべきなのか、アクティビティとして、ここに書いてあるバーベキューなのかとか、水上のスポーツとか、ノルディックとか、どっちによせたマネジメントになっていくのかというのは異なっていくような気がしていて、たぶん前回の協議会のときから、すごく皆さん、この公園での歴史とか自然資源とかっていうのを守っていきたいという思いがとにかく前回強かったので、そっちの方向で、寄り添っていろいろ考えないと、その方向性が定まっていけないと難しいなと思います。(若松委員)

●そうですね。たしかに若松委員がおっしゃられましたとおり、このままだいいと言われる方もたくさんいらっしゃると思いますし、ただ今あげています課題はその議論とともに、やはりサインがわかりづらいとか、トイレの補修が必要だとか、いろいろな課題を抱えているのは正直なところでございます。熊本市の公園の状況として考えますと、もう1000を超える公園が今、管理する公園、どんどんどんどん増えていっておりますが、それを管理していく上でも、限られた予算の中でやっていかないといけない、その中で、この江津湖公園でどっか、収益施設を置いて、それで全ての公園を維持管理するという考え方はもってはいないんですけども、

幾分かやはりこの公園の中で、維持管理にも還元できる、それでまた新たな魅力等がうまれて、また利用者が増えていくというふうな好循環をうむような仕組みを入れていきたいと思うのが正直なところで考えているところです。先ほど言われましたこのままの江津湖を残さないといけないと、環境部会でも今議論しているところではございますが、当然ながら、この利活用の部会のところでも、この部会の中で、議論を、結果としてこのままの部分を残していくのか、残したほうがいいのか、そのへんも皆さんとともに議論をさせていただきたいと思っております。（事務局）

- 今のお話ですね、6、7年前だったか、ちょっと忘れちゃったけれど、熊本の水をどうアピールしていくかという、何というプロジェクトか忘れてしまいましたけれども、色んなことを検討した会があったんです。そのときに、江津湖の保全、維持管理に関しても、話ができたことがあって、そのときはニューヨークのセントラルパークの維持方法があるんですけども、名前忘れちゃったけれど、セントラルパークのCPなんかという組織があって、周辺の方がいろんなことを分担してこういうことをやるという、要するに全部ボランティアでやりますということで、それを紹介しました。と同時にどういった組織が江津湖に関して活動しているのか、その可能性があるかということで、いろいろ調べてもらいまして、かなり数があって60とか70という団体がありましたので、おそらくそういったことが、すぐここ最近でできるだろうと予感があったんですけど、またそういうことができる区域なりエリアなり公園っていうのは、熊本市でいえば江津湖だと思うので、そこをうまく組織化すると、相当有意義なことになるんじゃないかと、ちなみにもうひとつは、ご存知ないと思いますけれど、水守制度というものを熊本市はやっています。これは私も提案、明言もしましたけれども、その中に色んな方がいらっしゃいます。江津湖の保全管理とか、自然観察をやってらっしゃる団体さんとかいっぱい入っておられて、私はカヤック水守というようになっていて、その後あんまりアクセスはしていないんですけども、ただただけのようになって申し訳ないなと思っているんですけど、そういったものをうまく組織化すると、すごく大きな力になるんじゃないかなと思うので、維持管理費という問題は当然、大変だろうと思います。そういったところは、オーガナイズをするっていうところまではいかなくても、ある程度やっていくと、セントラルパークと同じような存在感に、公園にできるのかなという気もします。（葉山委員）

- たとえば先ほどのこの課題でいうマネジメントのほうの今のお話は、人材育成という課題に挙げられているけれど、実は結構、いらっしゃるはずですよ。実際いますよね。人的資源も連携するという、連携できていないというのが、課題なのかもしれないですよ。（星野部会長）

- ある程度勝手に大事にされていらっしゃるんで、無理にいいのかなっていう気もするんですけどね。（葉山委員）

- 江津湖アミュージアム構想、江津湖一体を今やっているみたいに文化遺産もあるし、人もいるので、一体的な水のテーマパークじゃないけれども、そのような構想が一時期あったんですよ。それがたち切れになって、水守さんというのも189名水保全課のほうで、登録をしているん

ですけれど、江津湖の利活用と私たちどちらかという環境保全の立場で目線がいつてしまつて、今の水守さんたちは、活動をよくされていて、江津湖清掃とか、結構まめにされるんですよ。私達もその誘いを受けて、年に3、4回江津湖清掃に行くんですけども、その中で、汚してほしくないというような意見が多いんですね。やはり江津湖は熊本のシンボルでもあるし、日量40万トン水が湧くんですね、昔は90万トンあって、それが60万トンにおちて、今40万トンにおちているという、なおかつ水質的にも悪化傾向が少しみてとれるので、できれば汚してほしくないというのと、今プラスチックの問題もあって、清掃活動いくとかなりなげこみがでてくるんですよ、やっぱり。江津湖っていい公園なので、人に多く集っていただいて、熊本の水をより宣伝してもらいたいということが、ひとつあるんですけども、その半面守ってもらいたいというその管理面っていうのをいかにうまくやっていくかというところがひとつ大事なのかなと思うんですよ。せっきある施設なので、やっぱり有効活用したいんですよ。熊本にはこういう素晴らしいところがあるんですよと県外にも海外にも発信していきたいんですけども、逆に人が増えたときにどうしても荒れてしまうという、今江津湖を守っている水守さんたちは、もう汚してほしくないよねっていうのは正直なところあります。さっきの人材活用という中で、今私が考えているのは、水守さんたちがここに関与しているので、水守さんを登録して、講師とか、そういう派遣制度みたいな感じができないかなと考えているところで、当然江津湖を案内するボランティアの方、江津湖も水について、歴史について、たとえば草花についてとか非常に詳しい方もいらっしゃるんで、そういう人たちをうまく活用できるのは人材育成の面ではいいのかなと思います。(水保全課)

- 葉山さんの最初のコメントのとおり、環境保全とあれっていうののバランスをどうとっていくのかということがテーマに、正直いうと私、事務局と事前のときも今休日、車停めれないくらいいっぱいいるじゃないですか、もう十分なんじゃないのって、ちょっと議論したんですけど、長期のスパンで考えたときに、たぶんもたないと考えてるんですよ。つまり、税金をこれ以上投入するというのは無理ですし、そのときにやはりどう持続可能な維持管理システムっていうものを今つくっておかないと、まずいだろうと、人を呼びたいということではなくて、持続可能な今どんどん要するに議論していく中で、最低限今以上の魅力を維持していくための仕組みづくりっていうことなんだろうなと思っています。葉山さんみたいな人に頑張ってもらおうという、なんとか耐えていくということもあるかもしれないですけども、やはり皆さんの力を結集できるような、何か汗かかだけじゃなくて、余裕をもって維持できるようなそういう仕組みづくりというものが求められているんだろうなという感じ、私部会長としてはそういう感じですよ。(星野部会長)

- たとえば汚してほしくないというような思いのところで、一番ありがちなのは、ごみを捨てないでくださいと看板を立てることだと思うんですけども、最初葉山さんのほうからそれを立てずっていう話があったんですけども、たとえばこういう部会なので、あれぐらいの規模の都市の公園なんですけれども、看板がひとつもない公園を目指すとか、その方法として、その目の前の看板に文言がかいてあるっていうのは、たぶん私たちが公園で遊ぶ中で、あまり目にしないとすよ。ただ看板が一個もないかわりに、江津湖エリアに入ってきたら、ス

スマートフォンに注意事項がバツとおりにくるとか、そういう他のところにはないような方法とかあったら人はなんでか気になってか、みてしまうじゃないですか。そうすることによって、看板もないから景観もいい、今までかいてあるものをみてくれなかった人が、新しい方法でやっているからみるようになる、先進的な事例なんですけれども、公園におこなっているものは引き算で、みたいなそういう新しい事例っていうのが、熊本の中心部にはあるっていう、公園として、らしさっていうものになるといいなと思いますし、足していくというよりは引いて、今の技術とか仕組みで公園を面白くしていくというふうな考え方はひとつありなのかなと思います。(若松委員)

●公園に看板がないっていうのはいいと思います。あと情報とかは入り口というのは、おそらく広木地区に集めてあったほうがいいと思っていて、広木地区っていうのは下江津のわりと広いところで、幹線道路が近いところ、駐車場が大きい、それと建築物の平屋の、あっても許せる範囲の建築物がありまして、詳しいことを本当に知りたいときに、最初の入口はそこで、今おっしゃってたように、上江津とかなるだけアクセス数が多い少ないほうが、本来はいいので、変な言い方ですけども、そこでは選択された部分的な情報が取り扱われて、より詳しいことは、広木地区に行く情報があって、いろんなことがわかるという、極端にいうなら、上江津にアクセスするんじゃなくて、広木地区に最初行っていただく。そしてできれば動力船は使わない、すみません、使わずに移動する方法があるともっといいなと思います。情報の入り口と受取口をこのレベルとこのレベルと最終的に最終したレベルと、3つくらいあるとか、中間地点が上江津地区とかにあってもいいですけどね。(葉山委員)

●おそらく今言われたような、ゾーニング図みたいなのは最後しっかり出していくんだらうなど。若松さんが言われているようなひとつでも、ふたつでも、江津湖らしい、新しい取組みにチャレンジしたいですね。盛り込みたい。そこら辺皆さんと探せていけたらなと思っています。他の方の意見で何か、どうですか公園管理者さんとしては。(星野部会長)

●この利活用の主旨が、我々管理業務365日近くいるんですけども、よく来園者の方とお話するんですが、ほとんどの方、特に下江津なんかに関してはほとんどの方がリピーターといいますが、毎日来ている方なんです。新しい人たちを集客するための話なのか、今活用されている方たちに、利便性がよくなれば、新しい人たちもまた来ると思うんですけど、その主旨が私ちょっと見えなくて、何なのか、ただ老朽化しているものを見直すのか、あとあとから話はつながっていくとは思いますが、ちょっとみえない部分があって、というのが、さっきおっしゃったように、江津湖ずっといつもみているからかもしれないですけども、あんまり見所ってどこなのかなって、水と緑、自然があって、鳥もいっぱいいて、市内に近いというところで全国でも珍しいと、我々もしっかりと管理をしております。ただここが綺麗なのかなというのがあって、我々としてはだからこそ、江津湖八景とって、時間帯朝とか夕方とか、朝もやとか、そういった江津湖八景とって、この場所からこの場所が綺麗ですよという情報を1年間かけてつくって、情報提供しているところなんです。今つくっているんで、公にはもうちょっとあとから出てきますけれど。冬の朝もやが綺麗とか、ホテルがこ

の時期にきますよとか、それを写真に撮って行って、そういう見所を提供していこうと思って
いるんですけども、あとさっきおっしゃったように、江津湖が一番普通の公園と違うのは、
外周一周100%出入り口なんですよね。出入り口という出入り口がないんですよ。駐車場の
出入り口はありますけれども、どこからでも入ってこれるんです。(松本委員)

●公園の入り口みたいなところはないんですね。(星野部会長)

●ないですね。そこが我々の管理でいうと難しい。あれだけの自然公園の真横が民地ですよ、
矛盾しているところがいっぱいあるんですけど、山の中にある公園ではないということす
ね。(松本委員)

●何の為に利活用をやるのかということで、我々なりの理解です、我々財政局なんですけれども、
先生がさっきおっしゃったように、これから整備とか管理にどうしてもお金がかかりますので、
その財源をまかなうために、官民連携といいますか、紙(熊本地域プラットフォーム)がこ
ういったのがあるんですけど、あとからご紹介あると思うんですけど、これ公民連携とい
うことで、民間の事業者の皆さんに、たとえば今の都市公園法が改正されて、一定の割合を、
土地を貸し付けて、そこに商業施設か何かを建てて、そこからあがったお金で公園の運営経費
にまわすっていう仕組みができています。財政的な理解からすると、こういうことを組み合わ
せてやっていくことによって、そういった今後の整備ですとか、維持管理の財源を捻出をでき
たらと思っておりますので、そういう意味で利活用ということをやっていけば、非常に意義が
あるのかなと、当然保全の範囲が決まった上で、ですけど。ちなみに、ご紹介をすると、動
物園だけでも、年間コストとして10億円かかっています。これは人の人件費ですとか、動物
のエサ代、建物の管理経費、全部合わせて10億円かかって、動物園の入園料とか、遊具の使
用料とかはいくらかという、3億円なんです。ギャップが7億円で、その7億円は税金を当
てているんです。こういう収支のギャップみたいなのもできるだけ改善させていきたいとい
うことが、ひとつありますし、江津湖全体の指定管理費、1億5千万円くらい管理にはお金がか
かりますので、こういったものにも財源が当てられる何かができたらなと思います。ひとつの
理解として。(資産マネジメント課)

●それは熊本に限らず、少なくとも先進国全ての課題だろうなと思うんですけど。一般的にも
江津湖の税金が、減りますじゃなくて、その取組みが直接ユーザーが良かったなと思えるよ
うにならないとやっぱり意味がないですし、江津湖の場合はたぶん、結局それが江津湖の認知度
とか、いろんな問題意識とか課題があって、より広い人と共有ができて、環境が保全されると
か、将来的には地下水量も増えてきたとか、そういうところに戻ってかないといけないとい
うのが、江津湖のさらに難しいところかなと思うんですけど、そこを目指していかないとい
けないですよ。はい、どうですか他にも。(星野部会長)

●私たちは健康に皆さんがなっていただけるようにいろいろ施設を管理しているんですけど、
江津湖の場合は朝からとか夕方とか、歩いたりとか、健康になるために皆さんずっと歩かれて

いますんで、もう少し健康になるような整備ができればなというところは思っております。(田口委員)

●実際この体育館で、何かした人がちょっと公園ぐるっとして帰るとかあるんですか。(星野部会長)

●うちの方では、トレーニングルームがあるんですけども、そういった方には江津湖のほうに気分転換に歩いてみてはと声をかけたりはしています。(田口委員)

●先月、水前寺活性化プロジェクトチームというところで、江津湖っていうわけではないんですけど、上流の藻器堀川で、その川清掃をやったんですよ。その川に入ってみると、湧き水はでていっています。ですので、この湧き水を、湧水ですね、これを伝えるような観光業にということでは地元でもでていっていますよ。たとえば広木のほうから舟をずっと川くだりみたいなのをできればなと、あと観光業で仕事をしているんですが、広木のほうに中国のバスとかが入っているみたいなんですけれど、何をされているのか知りたいんですよ。(楠本委員)

●トイレです。(松本委員)

●それだけですか。(楠本委員)

●そうです。(松本委員)

●どうしても水前寺とかはバスが入ってくると、駐車場は有料なんですよ。出水神社から来る予定表なんかみると、江津湖公園というのが入っているんですよ。それでここで何をしているんだろうなと思っていたんですよ。水前寺だけには少ないんですけどね、数が。そこらへんで全体像が今のでみえれば、もうちょっと新しい観光にも役に立つ提案ができるのかなと思ったところですよ。(楠本委員)

●水前寺との連携というものも大事ですもんね。水前寺公園自体の管理は。(星野部会長)

●これは出水神社がやっています。(楠本委員)

●交通アクセスで不便な部分ばかりが書いてあるんですけど、スポーツの世界大会でいろいろまわられている方が、「インターからも空港からも江津湖は近いよね。」って。(東部まちづくりセンター)

●大きい視点だと近いと。(星野部会長)

●はい。「そういう見方をしていないでしょう市は。」と言われたことがあって、そういう見方も

あるんだなと感じたことがあります。(東部まちづくりセンター)

- 私は地域担当職員として、地域の方とお話をする事が多いんですけども、その中で健軍商店街が広木地区の近くにあるんですけども、江津湖を利用した人が健軍商店街へ行って、買い物とかされるような、そういった流れができるようになればいいなという意見は聞いたことがあります。(秋津まちづくりセンター)
- 周辺との連携ですよ。(星野部会長)
- 私も江津湖のすぐそばで生まれまして、育ちまして、結婚してもすぐそばに住みまして、子育てもしました。息子も2人いるんですけど、息子たちも江津湖で遊んで育ちまして、今成人しているんですけども、また江津湖に戻っているという、江津湖に行ったりしています。私も年を重ねて夫婦で歩きに行ったりしているんですけども、こんな素晴らしい自然があるところなので、職員としてではなく、個人としてはなるべく手を加えずに、やはり今あるものを本当に大事にしながら、必要最小限、昔トイレの管理とかやっていたので、トイレとかは老朽化が進んでおりますので、必要最小限整備をしながら、とにかく何も無いだけですけども、行って何かホッとできるとか、子どもから高齢者の人まで憩いの場じゃないですけども、ゆっくりできるところでいつまでもあってほしいなと思っています。(秋津まちづくりセンター)
- ここ江津湖は加勢川ということで、河川管理者の方としては、江津湖を利活用する中で、何か少しでもお手伝いできる部分が出てくればいいなというところでこの会に参加しているところでございます。以上です。(東部土木センター河川公園整備課)
- 私の方は指定管理の管理をしておりますけれども、公園内の施設の老朽化、特に園路とか、東屋とかパーゴラ、木でできている部分とかが、腐っていたりして、部分的には撤去とかしているんですけども、その次いつできるんだろうかと、いつ代替の施設がつかれるんだろうかということがわからないという状況で、指定管理の修繕費なのか、東部土木本体で出すのかも決まっていないということと、水草関係が、最近江津湖は綺麗と皆さんおっしゃっていただいているんですけども、年間1600トンくらいの水草の処分をしている状況でありまして、その辺がかなりハード的に大きいかなと感じております。以上です。(東部土木センター河川公園整備課)
- 今回部会の委員として参加させていただいておりますけれども、一市民として考えて、私の子どもが小さいときは江津湖に行っていたんですよ。水遊びに。今成人して、親元離れている。私が最近江津湖に行っているかなと、まったく行っていない。やはり家族連れでは行っていたんですけども、私みたくおじさんになっても、何か魅力的なものが、何か惹きつけるものが江津湖であればいいなと思います。(東部土木センター総務課)
- 何かが持続的に維持管理されていくためには、ある層だけをねらうのはあんまりよくないですよ。多様な層が、利用者がっていうところは非常に大事なので、ぜひ行きたくなるような

ものを提案しましょう。(星野部会長)

- 河川課です。江津湖では加勢川に関して、市の管理している河川で堤防を唯一ある河川でありまして、河川課として、治水安全度というのがでてくるので、今治水安全度が保たれている状態です。現在でも江津湖というのはすばらしい状態が保たれていると思うので、利活用には協力したい反面、必要最小限度でないという個人的考えはあります。以上です。(河川課)
- 水産振興センターからですけれども、先ほど東部土木センターの方がおっしゃったように、水産サイドとしては、ひとつ残念に思っているのは、秋津のほうにあった、秋津有楽園という、この方も錦鯉や金魚の生産をされていた方で、非常に古いものではありますけれども、知っている人は知っている遊びの場として提供されていて、ちょっと地震の影響もあって辞められたんですね。そういったのが残っていれば、魅力のひとつとして発信できたのかなって思っているところは、他の養殖業屋さんはいらんですけれども、遊園地みたいなところをつくっているわけではないので、小学校の生徒さんたちとかは紹介されていますけど、水産サイドとしてはそういったところ、うまくやっていければよかったのかなと感じているところです。産業的な側面よりも、私も個人的に思うところで、ここにも書いてありますけれども、20年後とか、30年後、50年後、あるいは自分が亡くなった後、どうなっているのかなと、どうありたいのかなと思うと、一番大切なのは、水だと思えますね。皆さんももちろんと思いますけれども。水を守っていくというときに水保全課の私の知っている方がブランドを立ち上げて、上流域、中流域での涵養とか、湧水活動とか努めてこられていたと思いますし、やっぱり水を大事にしてほしい。それを分かってもらえる場として、やっぱり江津湖を核において、今もされていますよね、小学生にきてもらって、勉強してもらって、水質みたり、生物みたりとか、今やっているのかは知りませんが、ホタルの幼虫を放流して、ホタルが飛ぶような水辺(水域)、ホタルの生息するというのは、あくまで水質の大きな目安ですから、そういった教育のフィールドとして活用していくことにまずは、市に在住の子ども達が大人になっても、小さいころあそこであんなことしたよねって、やっぱり江津湖の水、熊本の水って大切だよっていうのを発信してほしいというのがひとつあります。予算をとりたいたとか、維持管理をっていう話になると、ゾーニングしながらグランピング等の展開もやむなしなんですけれども、熊本人の気質からするなら、熊本城基金があったんだから、湧水基金もあって、そっちでまかなってもいいんじゃないかなと個人的には思っています。以上です。(水産振興センター)
- スポーツ振興課のほうからみると、総合体育館の所管でありますので、その視点からいうと、総合体育館自体が地域のスポーツでも使用されていますが、大きな大会が主になります。しかし、実際現場としては、駐車場が県立図書館の駐車場として使われていたり、周りの方が停めていたりして、駐車場が不足しているんですけれども、私ときどき大会などで総合体育館を使用させてもらってますけれども、車で来るときは乗り合わせて来てくださっているもので、たとえば家族で来て、奥さんと子どもが水前寺江津湖公園を利用しようと思ってもなかなか一緒に来てって、そういうわけにはいかないの、結局利用するときは総合体育館の利用だけというときにしか来ないので、そこを結び付けていくっていうのをどういうふうにしたらいいのか

など、今ずっとみているんですけど、そこを勉強できればなと思っています。(スポーツ振興課)

- 文化振興課です。まず課題の整理の部分について江津湖自体が、広大な面積で、それ地区ごとに、広木だったり、庄口、動植物園、下江津、水前寺、出水、各地区ごとにそれぞれ特徴とか、部分があるので一律的に保存だったり、そういったものの議論はなかなか難しい、まず、部長もおっしゃったとおり、ゾーニング、その地区ごとの特徴を合わせて、いろんな計画を立てるっていうのが、まず第一に必要なかなと思いました。我々文化財の立場で言いますと、水前寺成趣園を含めまして、出水地区の砂取邸とかもございまして、こういう部分については、歴史的な文化を活かしたような公園の活性化ということをやっているのかなと、広木地区については、自然環境が多いということですので、保全を中心にしたサイクリングとか、そういうような視点で考えていく必要があると思いますので、そういう視点で各担当部署、併せて私もですけども、意見を出せていけたらなと感じたところです。以上です。(文化振興課)
- 動植物園の西といいます。先ほど資産マネジメント課さんの話からもありましたが、動植物園が地震前でですけども、年間出口ベースで10億、自主財源といわれるものが3億くらいで、来年度が、昔水前寺に動物園があって、そこから開園90周年ということで、我々としては開園百周年に向けて、取り組みを進めているところです。まだ、地震の影響で全面開園もできていないですし、値下げして土日だけの部分開園というところで、なかなかコストという面で見ると、当時の3割よりも悪い状況になっているというところで、単純にこれを10年つづけると、70億税金をつぎ込むと、さらにそれに施設整備も別途つぎ込むとなると、相当な金がどうしても発生してしまうという現状がありまして、今回この部会の方に期待をしているところがありまして、公民連携の取組みということで先ほど、課題図の駐車台数が載っているところを見てみますと、動植物園の駐車台数ってのが載っていないので、熊本のお客様は主に車で来られるんですけど、動植物園には8箇所くらい駐車場があって、それを合計すると約1000台以上の駐車が、確保が可能という、ただピーク時で今週の土曜に動植物園夜間開園を、花火も200発くらいあげるんですけど、その時でだいたい9000人お客さんが来られるともう駐車場がパンクをしてしまいます。だいたい7000人くらい来られて、その時でもう一杯ということで、車で来られる方も約4名弱くらいの乗車で来ますので、そういったところがありますので、土日とかイベントシーズンというのは、非常に難しいのかなと思うんですが、それ以外の日常の利用、先ほど江津湖の駐車場がすぐ満車になって、動植物園の駐車場に停められる方もなかにはいらっしゃると思いますが、公民連携で何か、この地図の真ん中くらいにありますので、そういったところで何か今までにないようなもので、駐車場所としてでも何か、そういう活用がされればなと思っています。(動植物園)
- イベント推進課です。花火大会をイベント推進課では担当しているものですから、会場として下江津、広木を使わせていただくということで、結構私も休みの日もですね、出かけるようになって。実を言うと、ここに来るまでは上江津湖のことを江津湖というんだらうと思っていて、下江津まで行ったことがなかったんですね。会場を視察に行くといって、見たことないところに連れていかれて、広木はいいなと。よくお休みのときに行ってみると、車が停められないと

いうことはなかったんですけど、かなり多くの方がいらっしゃっていて、賑わっていて、星野先生がおっしゃったように、このままで良いんじゃないのっていうのが率直な印象です。ただサステナブル的な視点で考えると、確かにその視点でいくならば、維持管理とかコスト面とか検討しておく、考えておく必要があるんだろうなと納得したところです。まだ感想しか言えないんですけど、あの場所は自然を楽しむ場所なんだろうなと。いろいろつくってというよりも、その場を活用して、リピーターがほとんどというお話がありましたけれども、やっぱり地元の人憩いの場というのがメインの、通常の使い方なんだろうなと。ただ、私たちみたいに大きなイベントもすることができる場として、そういう活用もできるということで、広い受け皿があって、場があるから使い方も、いろんな使い方ができるというのもひとつのコンセプトなのかなというふうに感じました。多様性という意味でも、自然を楽しむこともできて、イベントもすることができるというような、そういう多様性自体がコンセプトなのかなというふうに感じたところです。以上です。(イベント推進課)

●観光政策課でございます。江津湖は観光資源として活かしきれていないというところが、マネジメントの課題の部分にあげられていますけれども、以前からこういった話はいただいておりますが、なかなか活用しきれていないというのがございますね。私の個人的な考えとしては、江津湖というのは周辺住民というか、住民主体で、環境だったりとか、ジョギングや散歩だったりとかで、そういったところの住環境に密着しているのかなというところを感じているんですけど、観光というふうな視点になると、やはり外からお客さんが入ってくる、特に最近では外国人の方観光客として増えていっているの、言葉の壁だったりとか、ごみ問題だったりとか、騒いだりとか、相反する利害というのが出てくるのかなと感じておまして、そこら辺をやはりどのような方向性でもっていくのかというところが一番の課題なのかなというふうに思っております。先ほどもお話ありました、江津湖は範囲が広いというのも、観光的な視点でいくとやはり水前寺成趣園だったりとか、あと動植物園だったりとか、そういった限られたエリアになってくるのかなと思っておりますので、ある程度ターゲットを絞って、展開をしていくのがいいのではないかと思っております。その上で、どういうふうに人をながして、そこで何ができるのか、何をするのかというふうなところで考えていく必要があるのかなと認識しております。以上です。(観光政策課)

●環境共生課でございます。江津湖は人のみならず、野生鳥獣、渡り鳥、冬場になればカモ類もやってきますし、野生生物の憩いの場として、扱っている場所でございます。先ほどからも座長がおっしゃられるとおり、どうしても自然環境あつての、人の憩いの場としていっているというふうなところがあると思いますので、どうしても人のゾーンと、野生、自然環境のゾーンということで、やっぱりゾーニングの住み分けというのを環境部会であつたり、こっちのアクティビティ部会のほうでも議論していきたいなというふうに思っております。以上です。(環境共生課)

●環境政策課です。環境局の中でいくつか環境教育のメニューをもっておまして、水生生物の観察ですとか、バードウォッチングですとか、そういったメニューがいくつかあります。そう

いった場所として、近隣の小学校見学とかで日頃からお世話になっていると思うんですけど、特に子どもを対象とした環境教育となりますと、大きな目指すべきゴールとしては、持続可能なまちづくりをしていくことで、そのまちづくりをしていくための担い手としての人づくりを環境教育を通じてしていくことということになってくると思いますので、今日いただいた資料でも、メニュー不足ですとか、PR不足ですとか、見えてきた部分もあるので、観察できる環境にしながら、そういった部分も考えていきたいなというふうに思っております。(環境政策課)

- 江津湖の上江津湖で、毎日のように中学生、高校生が飛び込んで、命の危険を感じているんですよ。ボートとかも出さないように、裸組はだめと断っています。先ほど景観をよくするために看板がいらぬとかおっしゃったんですが、何かその辺をしてほしいんですけどね。(宮本委員)
- この間、足を怪我した子がいて、救急車を呼びましたもんね。出血が止まらないとって。(江藤委員)
- 今も泳ぎよるかもしれんですよ。もう団体でくるんですよ。それで皆で飛び込むんです。(宮本委員)
- その団体がいなくなったら、すぐ他の団体がくるんですよ。(江藤委員)
- マナーの問題ですよ。そういう人はあんまり看板はみないから、そういうことやったらかっこ悪いとか、という空気をつくるといいんですけどね。(星野部会長)
- あとは見回りをしてもらおうとかですね。江津湖は危険だからよく電話するんですけどね、危ないと公園課に電話したら、来てくれるんですけど、呼ばないとこないイメージなんですよ。やっぱり私たちが注意しても、お宅の江津湖じゃないでしょって言われるのが現状なので、そういうところですよ。市民が注意するとちょっと強気の子たちは聞いてくれない。危ないんですよっては言うんですけど、そこで魚釣りをしている人たちだって、ボートに乗っている人たちは危ないですし、ルアーとかが当たったらどうするんですかって言っても、気をつけていますというだけでですね。(江藤委員)
- そういうマナーの問題が課題には必ず入ってきますよね。(星野部会長)
- 今の話はすごく大切だと思うんですけど、そこで戦っていかないといけない矛盾が、そういった裸で飛び込むような人たちが将来、俺らの江津湖ってなると思うんですよ。思い出がたくさんあったりとか、守っていく公園っていうふうにしちゃうと、正直守りたいと市民を誘発できないという可能性があると思っていて、あくまで楽しい公園だから、面白い公園だから、自分たちの思い出がある誇りがある公園だから、守んなきゃいけないんだっていうふうには誘発するような利活用が保全につながっていくことだと思うんですね。だから、実際に釣りをしてい

る人のが当たって怪我をしたりとか、欄干に当たって焼けどしたりとかしたら、それは本末転倒なので、それをどういうやり方で、江津湖らしくやっていくか、そこが、すごく大切かと思うんですけど、やっぱりこの公園自体が、利用者自体が守りたいっていう思いをもっていないと、事務局とか、ここを管理している人たちが思ったところで、絶対実現しないと思いますので、そこの仕組みづくりが、大事になってくるのかなと思います。(若松委員)

●いろいろお話を聞いた中で、簡単にまとめると、何ができる公園なのかという話と、何をしたい公園なのかというところを住み分けするところが大事なのかなというふうに思っています。そこが整理されていないと、財政の目からみたら、コストだからどうにかしたいという話も、整理がつかないと思います。魅力あるから金をかけるべきという話と、魅力がないから金をかけてはいけないとかという派生もいろいろあると思うので、ここの公園が、江津湖として何ができるのか、そして何を皆さんはしていくべきなのかなというところを押さえた上で、話を広げると、今後アイデアの展開がよいのかなというふうに思いました。以上です。(藤田委員)

●ありがとうございます。これが一応課題で、特にまとめは今日はない、まず皆さんの話をお聞きするという主旨ですけれども、議題(3)のその他について説明をお願いします。(星野部会長)

～議題(3)「その他」説明後～

●はい、今日の議題については終了です。特に今日、結論ということはないですけど、まず基本的に皆さん江津湖大好きなんだと、私も含めてですけど、皆さんそれぞれ意見が出た中で、ひとつひとつとっていかないといけないのかなと思いました。ぜひ皆さんのご協力をいただいて、この意見の意図の中で、まず私たちが提案できる最適なバランスというものを提案できたらなと思います。最初、若松さんからもありましたけれども、できれば今後はこういう狭くくしい場所で議論しないということで、部会長としては頑張りたいなと思います。今日はこれで私のほうからは以上です。(星野部会長)